

《資料》 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

第3章 道徳科の内容

第2節 内容項目の指導の観点

5 希望と勇気、努力と強い意志

〔第1学年及び第2学年〕

自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。

〔第5学年及び第6学年〕

より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

(中学校)

〔希望と勇気、克己と強い意志〕

より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。

(1) 内容項目の概要

児童が一人の人間として自立しよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。

こうしたことは、ただ漫然と努力するのではなく、自分に適した目標を設定し、見通しをもってよりよい自己を実現しようとする向上心と結び付いてこそ、前向きな自己の生き方が自覚できるようになる。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり、その実現を目指して自分としての夢や希望を掲げたりすることが大切である。自分の目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力することができるようにすることが重要である。

(2) 指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、何事も好奇心をもって行おうとする。やらなければならないことを素直に受け入れることが多いと言われる。また、興味・関心のあることについては、意欲的に取り組むものの、好き嫌いで物事を判断し、つらいことや苦しいことがあるとくじけてしまう傾向がある。この時期のやらなければならないことには、家族や教師から言われたことが多いが、やるべきことをしっかりと行うことは、自分自身を高めていく上で大切であり、児童が主体的に取り組んでいくようにする必要がある。

指導に当たっては、自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあり、しっかりと行うことの意義を自覚させる必要がある。また、家族や教師の励ましや賞賛、適切な助言などの下に、自分がやるべき勉強や仕事を、自分がやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導することが大切である。やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くことができるように指導することが大切である。

■ 第3学年及び第4学年

この段階においては、勉強や運動だけでなく、様々なことに興味・関心を広げ、活動的になる。自分の好きなことに対しては、自ら目標を立て、継続して取り組むようになり、計画的に努力する構えも身に付いていく。その反面、つらいことや苦しいことがあると、途中であきらめてしまうこともある。そこで、自分がやらなければならないことだけではなく、更に自主性を発揮し、自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもって、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。

指導に当たっては、目標を立て、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ、今よりよくなりたいという願い、努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。目標を実現するためには、自分自身の努力だけでなく、家族や教師など、周り人の励ましや賞賛があることに気付き、粘り強く努力しようとする態度を育てることが大切である。

■ 第5学年及び第6学年

この段階は、児童がそれぞれに高い理想を追い求める時期と言われる。先人や著名人の生き方に触れる機会が多くなり、その生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする。一方、自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。

指導に当たっては、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さや、希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により積極的で前向きな自己像が形成されるようにすることが大切である。

100



家へ帰って、ぼくは、「これからあんなことではあかん。」と、深く反省しました。でも、くせは、くせで、次のえんぴつけすり大会のときも、始めの言葉を言いながら、「しまった。また、しっぱいした。」と、すこくはずかしくなりました。そのとき、先生は、「足立くんの言葉、今日はりっぱだったなあ。テーマも目当てもちやんと入れて、いいあいさつや。なあ、みんな、うまかったなあ。」

と、みんなに言われました。みんなも、ほめてくれました。

しかし、ぼくは、「どうして、『うんとなあ』と言

うくせや、つまってしまつところなど、直らないんだろ。」

「どうやって、このくせ、追^おい出そうか。」

「本

当にどうやって、いんだろ。」と、考えつづけた。

した。

そして、とうとう、お母さんに打ち明けました。

そうしたら、お母さんは、

「かんたんなこつちや。人より下手やと思つたら、
人の倍練習したらええのんや。」

その日から、ぼくのあいさつや発表、作文を読む練習を聞いてくれて、直してくれるようになりました。

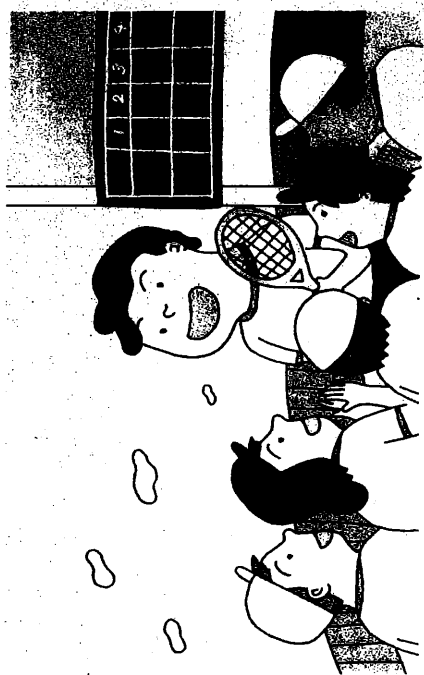
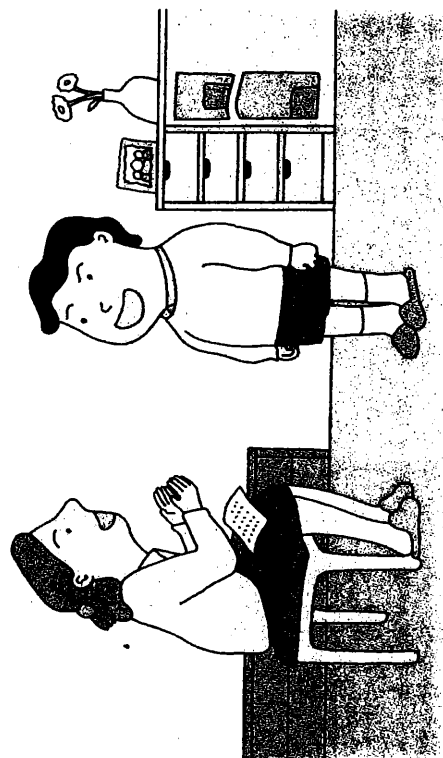
「お母さんかて、マラソンでいいせいせき取ってるのは、毎日練習しているからやんか。あんたかて、見てて知ってるやろ。」

人一倍がんばればよいということを聞いて、ぼくは、日曜日など、とくに早く起きて、練習しました。

お母さんも、

「もう、そろそろ、できるころやろう。」

と言って、ほめてくれました。



ラケットベース大会で、あいさつをすることになりました。
ぼくが、始めの言葉も終わりの言葉も全部やるのです。

始めの言葉は、自信をもつて言つたから、もそもそしないで、はきはき言えました。みんなは、はくしゅしてくれました。ついに、せいこうしました。

「よかった。やったあ。」と、さけびたくなりました。練習したかいがありました。やっぱりお母さんやと思いました。

ラケットベース大会で、元気いっぱい遊びました。そして、「終わりの言葉も、がんばるぞう。」と思つて、前よりも気を落着けて、ゆつくりと、はつきり言いました。

ぼくは、この調子で二学期もやつていきたいと思っています。

掲載「だのしい作文・3年生」小樽書局



足立くんは、お母さんに「人の倍練習したらええのんや。」と言われたとき、どんなことを考えたのでしょうか。



最後までがんばつたこと、がんばれなかったことを、発表し合ひましょう。

第3学年2組 道徳の時間学習指導案

平成28年1月12日（火）

課題別研修講座 道徳

模擬授業 小学校の部 指導案

1. 主題名「決めた事は最後までやり抜く」A－（5）希望と勇気、努力と強い意志

2. 資料名『はっきり言えるようになった』（光村図書）

3. 主題設定について

（1）価値について児童の実態と教師の願い

係活動を中心として、「こんなことやってみたい」と発想したことを堂々と表現することができる児童が多い。反面、所属する係に任せていたり、決まった約束を守らずに自分勝手な行動をとってしまったりしてしまう児童もいる。

また、反復練習をしたり、自分の意見をノートに書いたりする活動の際、書こうとしなかったり、最低限のことしか取り組もうとしなかったりする児童もいる。理由を聞くと「面倒だから」という答えが返ってくることもあり、自ら目標を立て、継続して取り組むことに対して、難しさを感じているものと思われる。

目標をもち、あきらめずにやり抜くためには、強い意志が必要である。強い意志をもって粘り強くやり抜こうとする時には、苦しくて途中で諦めてしまう人間の弱さと、今よりよくなりたいという願いとの葛藤があることについて考えさせたい。葛藤を経て、自ら決めたことをやり抜いた先には、清々しさや達成感などの良いことが待っている、ということにも合わせて気付かせたい。

（2）資料の特質や取り上げた意図及び児童の実態と関わらせた指導の方策

本資料は、人の前で話すのが苦手だった「ぼく」が、母親からのアドバイスをきっかけに練習に励み、はきはきと話すことができるようになる、というあらすじである。

指導にあたっては、母親のアドバイスである「人より下手やと思ったら、人の倍練習したらええのや」という言葉に注目させる。苦手なことを人の倍練習することが、自分だったらできるかどうかを児童一人ひとりに問うことで、価値に対する自己理解を促し、ペアでの交流や全体での発表を通して理解を深めていきたい。

また考えたことや学んだことを書くことで、価値について自己対話を通してじっくりと考える時間を保証していきたい。

4. 本時の指導

(1) ねらい

自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。

(2) 展開

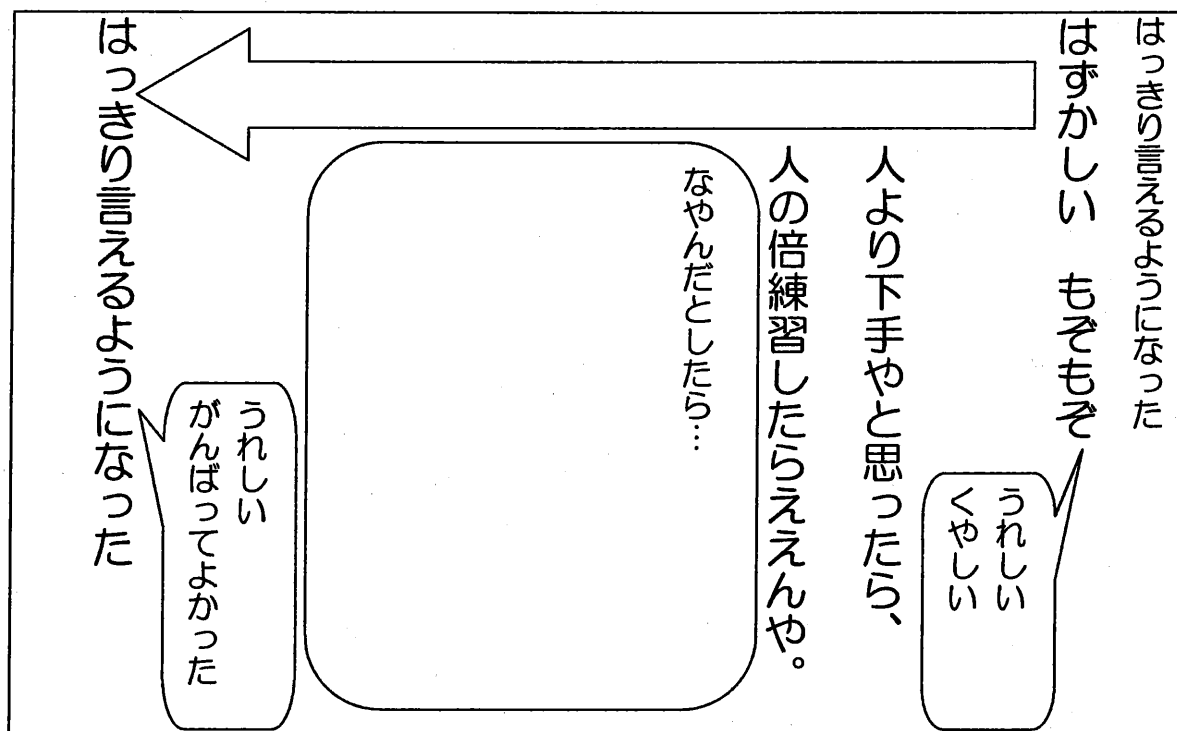
段階	○学習活動 ・予想される児童の発言や心の動き	○指導上の留意点 ・評価の観点
導入	1. 本時の課題を確認する。	
	最後まで諦めずにがんばった経験はありますか。 ある→○ ない→×	○理由などを聞きながら、課題への 焦点化を図る。
展開	2. 資料を読み、考える。	
	友だちや先生からほめてもらった「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょうか。 ・うれしい ・くやしい 補助発問：うれしさやくやしさはぴったり半分ですか。違うとしたら、どのくらいですか。	○児童の意見をまとめながら板書 するよう配慮する。
	友だちや先生から拍手をもらった「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょうか。 ・うれしい ・がんばってよかった	○1回目の拍手と比較して、努力を 重ね成功すると、より良い気持ち になることに気付かせたい。
	母親からアドバイスをもらってから、がんばろうと決断するまで、どのくらいの 時間がかかったと思いますか。もし時間がかかったのなら、決断するまでにどん なことを考えていたでしょうか。	
	・すぐに決断した ・決断までに時間がかかった ・ぼくにできるかな ・苦手だけど、言えるようにがんばるぞ ・またできないかもしれない ・お母さんに応援してもらいながら、がんばっ てみよう	○練習するのは、自分が苦手なこと であることを把握させたい。 ○理由も合わせて考えるよう促す。 ○考えを書いた後、ペアやグループ で交流し、他者理解を図る。 ○全体での発表時、必要に応じて問 い返し、価値への理解を深める。 ・価値に対する自分の考えを表現し ようとしているか。

	3. 学んだことを振り返り、自分のことについて考える。	
	自分が苦手なことについて、同じアドバイスをもらったとしたら、できますか。	
	できる→○ できない→× できる時とできない時がある→△	○理由も合わせて考えるよう促す。 ○友達の発表につなげて話すことが出来るよう工夫して指名する。
終末	今日の時間で感じたことや学んだことを書きましょう。	
		○ワークシートに書くよう促す。 ・学んだことや感じたことを、ワークシートに表現しようとしているか。
	4. 学んだことを広げる。	○稲葉選手の胸上げシーンを提示し、やり抜くことの良さを語る。

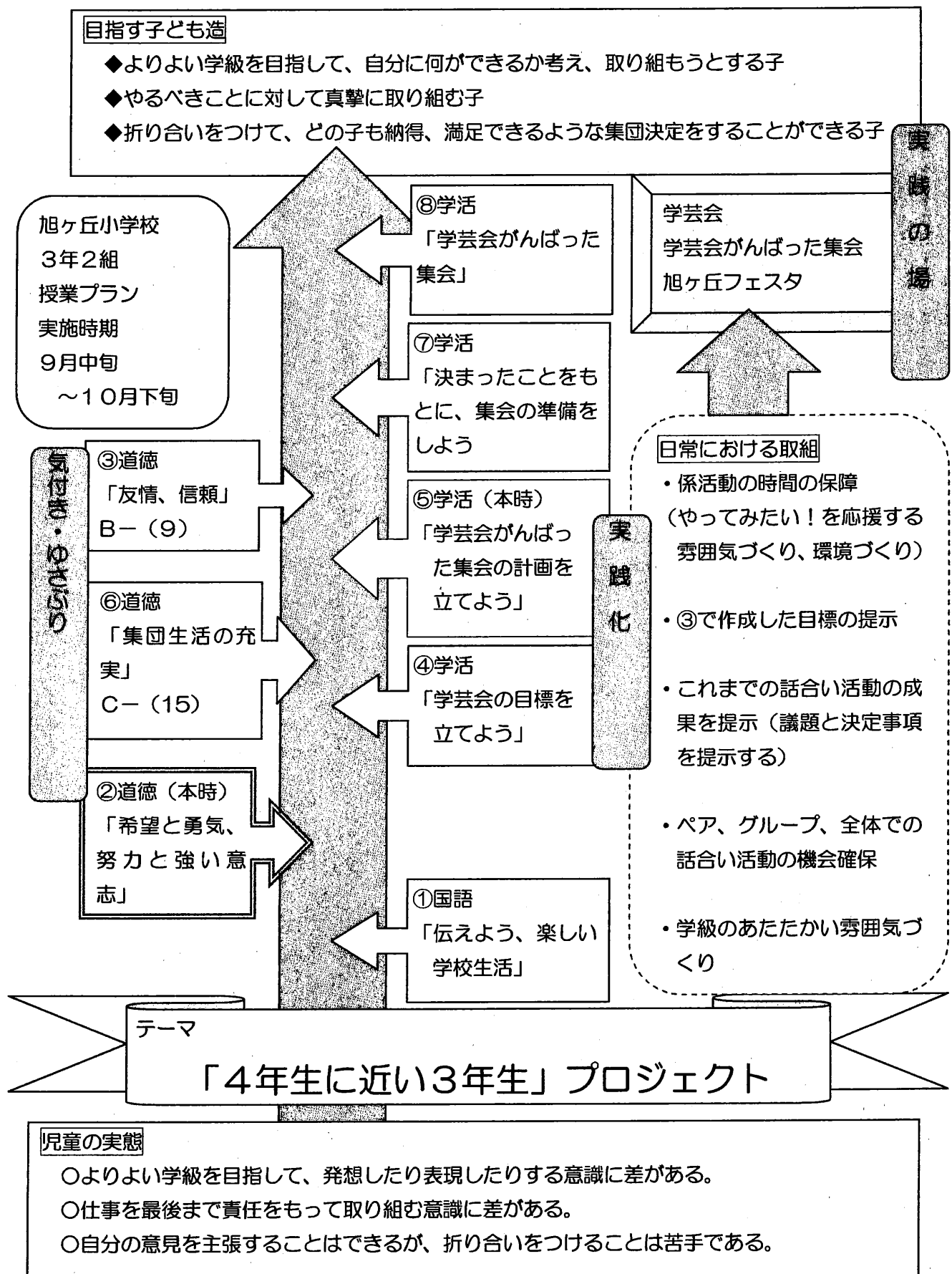
(3) 評価

自分でやろうと決めたことは粘り強くやり遂げようという態度が育っていたか。

5. 板書例



6. 他の教育活動との関連



3年 道とく「はっきり言えるようになった」

月 日 名前 ()

学んだことや、感想を書きましょう。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

第3学年5組 道徳指導案

日 時：平成27年10月9日

場 所：3年5組教室

生 徒：第3学年5組

男子22名 女子18名 計40名

指導者：教諭 北原 英法

1. 主題名 希望と勇気、克己と強い意志 内容 A-4

2. 資料名 「歌の世界で太陽になりたい」一部抜粋 (出典 学研 副読本「かけがえのないきみだから」)

3. 主題について

「題材観」

学習指導要領の内容項目A-4には、「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」ことをねらいとしている。「より高い目標」は、現実との関わりの中で考えられたものであり、「希望」は、自分で思い描いたあるべき姿、よりよい状態の実現を願う気持ちであり、「勇気」は、不安や恐れを抱いて躊躇する気持ちに屈せずに、自分が正しいと思うことをやり遂げようとする気力である。人生の理想や目標の達成を求めて、困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い気持ちを養うことが大切である。

中学生の時期は、人間としての生き方や社会のしくみなどについての関心が高まり、自分の将来に向かって理想を求める傾向が強くなってくる。しかし、描く理想は必ずしも自分の置かれている現実についての十分な認識に立ってない場合もあるので、人生を見つめ直し、理想の実現に向けてひたむきに努力したり挑戦する大切さについて考えを深めさせていきたい。

「生徒の実態」

5月実施の道徳性検査HUMANⅢの検査結果では、学級の道徳性は、全国平均とほぼ同じである。その中でも、「自分自身に関すること」の「節度」「自主自立」，「集団や社会に関すること」の「規則尊重」「集団生活の向上」が全国よりも高いという結果が見られた。指導を要するところは、「自分自身に関すること」の「理想の実現」等である。本学級の生徒は、これまでに体育大会や学校祭、合唱コンクールなどの取り組み等を通して、理想の実現のためには、目的と目標をもって努力することの大切さや協力することの大切さを学んできた。一方で、理想の実現のためには、挑戦や努力が必要とわかっていても、行動につなげられない現状がある。そこで、人の生き方や理想を持つことの大切さだけでなく、理想の実現のためにひたむきに挑戦する態度や理想の実現に向けた考えを高めていきたい。

「資料について」

本資料は、本田美奈子さんがアイドルから脱し、独自の自分を表現したいと理想の実現に向かってひたむきに挑戦する姿が描かれている。「ミス・サイゴン」の稽古で恥をかき、批判を浴びながらも、自己のめざす理想に向かって前向きに力強く努力する彼女の生き方を通して、よりよく生きることの大切さを実感させ、自己を振り返らせたい。

4 本時のねらい

(1) 本田美奈子さんが、独自の自分を表現するために、稽古で恥をかき、批判を浴びながらも、自己のめざす理想に向かって前向きに力強く努力する彼女の生き方について考え、強い意志をもって取り組み気持ちと、努力や挑戦することへの素晴らしさに気づかせ、自分たちの行動を見直しながら、人生の理想や目標の達成を求めて、困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を育てる。

(2) 視点1 クイズ形式で関心意欲をためられるように工夫

視点2 個人とグループ隊形で話し合う場面を設け、意見交流の場を持たせる

視点3 ワークシートに感想を書かせ、自分の内面と向かい合わせる

5 本時の学習活動

- (1) 本時の目標 人生の理想や目標の達成を求めて、困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を育てる。

6 本時の展開

	学習活動・内容	形態	時間	主な発問と予想される反応	留意点	支援上の留意点 ◆各視点の関わり
導入	美奈子さんの紹介にふれて、彼女の生き方に目を向けさせる。 映像2から、感想を言う。	個人	5分	○次に紹介する人は、誰でしょう。 ○では、この映像を見て下さい。 映像1（アイドル時代） ・パワーポイントで経歴紹介1		6つのヒント与える ・東京生まれ・グランプリ受賞 ・殺意のパカンス・新人賞受賞 ・本名・ヒット曲 ◆クイズ形式で興味・関心をひく
展開	配付資料①を読み聞かせる ・うまく出来なくても、諦めず前向きに取り組んだ姿勢やさらに上を目指す本田美奈子さんの行動の理解を深める。	個人	4分	○「アイドルだった本田美奈子さんは、どんな思いで『ミス・サイゴン』の稽古に取り組んだでしょう。」	補足説明 ペアで行う	・ミュージカルスターとしての地位を築きあげたことを補足説明。
		集団	6分	・パワーポイントで経歴紹介2		
		個人	4分	映像2（アメイジンググレイス）	机間巡視	①所属する事務所移った ②海外でレコードを出した。 ③ 芸名を変えた。 ④その他
		個人	8分	○本田さんは、さらなる飛躍を求めてあることをしました。それは、何だと思いますか。 ○「。」をつけたあとすぐ、本田さんに何が起きたでしょう。 ○「。」をつけたあとすぐ、急性骨髄性白血病と宣告された本田さんはどうしたでしょう。 ○本田さんは、「。」をはずしませんでした。どうしてでしょうか。 ・この病気も歌手としてはばたかためのハードル。 ◎「歌を通して太陽になること」には、どんな思いが込められているのだろうか。 ・映像3（病室での映像）	前後ペア	①「。」をすぐはずした ②「。」をはずさなかった ③ その他。 周囲の人の心配をよそに、この病気も歌手としてはばたかためのハードルと捉えていた実話にふれる。
	配布資料②を読み聞かせる ・本田さんの強い意志を考えさせる。 ・前向きに生きることへのすばらしさを感じとらせる。	個人	10分		グループ	亡くなる直前の映像であることを伝える。映像2とも比較させたい。 ◆視点2：班で意見交流とする
	当てはまる語句を考える。 感想を記入し、発表する。	個人	13分	○本田さんが生前言っていた言葉です。（ ）には、同じ言葉が入ります。その言葉を考えましょう。		（チャンス） ◆視点3：ワークシートで内面と向きあう

さんの生き方から考えよう～

年 組 番 氏名 ()

① 誰か分かった人は手を挙げてください。

② 本田さんは、どんな思いで「ミス・サイゴン」の稽古に取り組んだでしょう。

③ 本田さんは、さらなる飛躍を求めてあることをしました。それは何だと思いますか。

① 所属する事務所を移った。 ② 海外でレコードを出した。 ③ 芸名を変えた。 ④ その他

④ 本田さんは、()。どうしてでしょうか。

⑤ 「 」には、どんな思いが込められているのでしょうか。

⑥ 本田さんが生前、言っていた言葉です。()には同じ言葉が入ります。その言葉を考えましょう。

怖いけど、やりたいと思った瞬間に、チャレンジすることが大事なんだって。挑戦するって、すごく勇気がいるじゃないですか。そして、何か、チャレンジは()につながるんじゃないかって。チャレンジって、()なんだって思ったんです。

感想：

資料①

「それまで、自分のプライドや価値観に執着して、人をちゃんと受け入れない部分があったんですね。でも『ミス・サイゴン』で、チームを組むようになってから、わたし、そんなプライドを捨てて白紙に戻そうと思ったんです」

“歌手・本田美奈子。”として築いてきた誇りさえもかなぐり捨て、まさにゼロからスタートすることになる。

「歌手としてずっとステージをやってきた。でも、そこでの踊りは全部自己流だったし、本格的にやってたわけじゃないんです。『ミス・サイゴン』の稽古で出会った人たちは、皆、専門の訓練を受けてきていて、ジャズダンスもエアロビクスも完璧にできる。だから、最初はすごく悩んだ。皆、わたしのことを踊れると思っていないじゃあないか、ヘタな踊りを見せたらどう思うだろうかと……。そんなことばかり心配していました。でも、本田美奈子、のプライドを出してしまったら、皆と仲良くなれない。えい、ヘタクソでもやっちゃえ！って皆の中に飛び込んだんです。」

はじめてのダンスレッスン。美奈子は体も硬く、1人だけ違っている。だが、

「自分は一番前に出て一番恥をかく。うんとかくんだ。その代わり、舞台にでたら恥をかきたくない」

と自分に言い聞かせ、最前列で踊った。すると、背後でクスクスと笑いが起きる。振り返らずとも、皆が笑いをかみ殺し肩を震わせている様子が手に取るようにわかった。それでも、次も、その次も最前列に立っていると、そのうち、皆が気をきかせてちゃんと最前列を美奈子のために開けてくれるようになった。

さらに外部からは、ミュージカル経験のない美奈子の抜てき批判する声も聞かれた。

「なーに、本田美奈子、なんてすぐにつぶれちゃうよ。つぶれたら、……がいくよ。」などという噂も耳にはいったが、彼女は弱音一つ吐かなかった。（中略）

オーディション合格から1年4ヶ月後の1992年（平成4年）5月5日、帝国劇場。ミュージカルスター、本田美奈子、が誕生する。

「『ミス・サイゴン』は、わたしにとって大きく高い山でした。この山を越えれば新しい輝く私が待っているって、歯を食いしばって頑張りました。『できない』と思っていたことも、努力すれば必ずできるんだってわかったのは大きな喜びでした。でも、そこで終わりじゃなかったんです。一つ山を越えれば、今度はもっともっと高い山をめざしたくなる。低い山にはもうあんまり魅力を感じなくなるんです」

資料②

お元気ですか！？心配かけちゃってごめんなさい。まさかこんなことになるなんて……。自分自身未だに信じられません。なんか夢をみているみたいです。でもこれは現実！！現実を受け入れて、病気と戦わなければいけない！！と思っても涙が止まらないのです。泣きたいときには泣きましょう。（ジュピターより）この詞の通り、がまんしないで、泣きたくなったら泣いています。今年でデビュー20周年で、いろいろチャレンジして、1回でも多くみんなの前で歌を歌って、好きな時間を沢山つくろうと思っていたのに……。こんなことになっちゃって……。本当にごめんなさい。

今、アルバム“時”の中から、“時”を聞きながらこの文を書いています。何度も 何度も ペンが止まりました。“時”という曲が私の心の中へ 次から次へと飛び込んでくるのです。本当に素晴らしい曲です。早くみんなの前で、“時”と歌いたい！！と心のそこから思いました。

1日もはやく治して、元気な姿で歌える様頑張ります。暖かい心の込めたメッセージたくさんありがとう。みなさんの応援がこころの支えです。待っててネ、待っててネ 成長して みんなのもとへ帰ります。心を込めて……

6

歌の世界で太陽になりたい

まはゆい七色のスポットライトの光に、頬の汗がきらめく。

「みんな、いっしょにー」

わっと湧き上がるファンの歓声に、美奈子は弾けるような笑みを浮かべた。

一九八五年（昭和六十一年）四月二十日、本田美奈子は「殺意のパカンス」でデビューした。

デビュー曲に続いて「Temptation（誘惑）」もヒットし、ファーストアルバム「M'シンドローム」を発表。この年の十二月には、デビュー一年目にして日本武道館でファーストコンサートを行った。その年の日本レコード大賞、日本有線大賞ほか、新人賞を総なめにする。さらに翌年は、「1986年のマリリン」が大ヒットし、はじめてのベスト10入りを達成した。

「人と違うことをやりたい、人と同じことをやりたくないんだもん」

やがてアイドルを脱し、独自の自分を表現したいと希望していく。クイーン、マイケル・ジャクソンら海外の一流アーティストとの出会いを経て、一九八八年に日本で女性だけのロックバンド、MINAKO with WILD CATSを結成。一年後にソロ活動に戻ると、ジャズや洋楽のスタンダードナンバーにも挑戦した。

さらに、彼女の人生を大きく変える転機が訪れる。

それは、ある夜から始まった。

美奈子は所属事務所の高杉敏二に同行したときに、東宝演劇部のエグゼクティブプロデューサー、酒井喜一郎と出会う。そこで、東宝創立六十周年記念として、かつてない規模のロングラン公演になるというミュージカル「ミス・サイゴン」のオーディションがあることを知ったのである。五十八人のキャストをめざして、一万五千人を超える応募があつた。オーディションは一九九〇年（平成二年）九月から数か月にわたり、美奈子も何度も呼び出されては歌を歌った。あきらめそうにもなったが、翌年一月十三日、高杉に東宝から電話があつた。

「本田美奈子.さんがキム役に決定いたしました」

「それまで、自分のプライドや価値観に執着して、人をちゃんと受け入れない部分があつたんですね。でも、『ミス・サイゴン』で、チームを組むようになってから、わたし、そんなプライドを捨てて白紙に戻そうと思つたんです」

歌手・本田美奈子.として築いてきた誇りさえも

コンサートで熱唱する美奈子。（撮影：原田幸子）



一 アルバム「M'シンドローム」のジャケット。



かなぐり捨て、まことにゼロからスタートすることになる。

「歌手としてずっとスリージをやってきた。でも、そのこの踊りは全部自己流だったし、本格的にやっていたわけじゃないんです。『ミス・サイゴン』の稽古で出会った人たちは、皆、専門の訓練を受けてきていて、シヤスダンスもエアロビクスも完璧にできる。だから、最初はずっと悩んだ。皆、わたしのことを踊れると思っているんじゃないか、へたな踊りを見せたらと思うんだろうか……。そんなことはかり心配してしましました。でも、本田美奈子のフライドを出してしまつたら、絶対、皆と仲良くなれない。えい、へたくすでもやつちゃえー」つて、皆の中に飛び込んだんです」

「柿いけど、やりたいと思つた瞬間に、チャレンジすることが大事なだって。挑戦するのつて、すごく勇気がいるじゃないですか。そして、何か、チャレンジはチャンスにつながらんじやないかなって。チャレンジつて、チャンスなんだって思つたんです」

発声やダンスなどの基礎レッスンをする、ミス・サイゴン・スクールが開校した。はじめのダンスのレッスン。美奈子は体も硬く、動きも一人だけ遅っている。だが、

「自分はいちばん人前に出ていちばん恥をかく。うんとかくんだ。その代わり、舞台上出たら恥をかきたくない」

と自分に言い聞かせ、最前列で踊つた。すると、背後でクスクスという笑いが起こる。振り向かずとも、皆が笑いをかみ殺し肩を震わせている様子が手に取るようにわかつた。それでも、次も、その次も最前列に立っていると、そのうち、皆が気をきかせてちゃんと最前列を美奈子のために空けてくれるようになった。

さらに外部からは、ミュージカル経験のない美奈子の抜てきを批判する声も聞かれた。

「なーに、本田美奈子、なんてすぐにつぶれちゃうわよ。つぶれたら、……がいくのよ」

などというわさも耳に入つたが、彼女は弱音一つ吐かなかつた。

「わたしは舞台上では演じないからね。キムとして生きるからね。強く生きてみせるからね」と強く言い放つのだつた。

スクールのほかに、三人の先生について、ヴォイス・トレーニングも受けていた。日々、新たなことを吸収していく中、美奈子はいつもノーマイクのままだった。

「何で化粧しないの？」

と高杉が聞くと、美奈子は言う。

「ベトナムの子は化粧しないの」

「ベトナムの子になつたんだ？」

「そうなのー」

無邪気に笑う彼女は、いつしかキムになりきっていた。

オーディション合格から一年四か月後の一九九二年（平成四年）五月五日、帝国劇場。ミュージカルスタール、本田美奈子が誕生する。

「『ミス・サイゴン』は、わたしにとって大きくて高い山でした。この山を越えれば新しい峰々



「ミス・サイゴン」の一場面。
(写真 東京演劇部)

わたしが待っているって、歯を食いしばって頑張りました。「できない」と思っていたことも、努力すれば必ずできるんだってわかったのは大きな喜びでした。でも、そこで終わりじゃなかったんです。一つの山を越えれば、今度はもっともっと高い山をめざしたくなる。低い山にはもうあまり魅力を感ぜなくなるんです」

「ミス・サイゴン」でミュージカルと出会った彼女は、「屋根の上のヴァイオリン弾き」「王様と私」「レ・ミゼラブル」「十二夜」「クラウディア」と、数々の舞台で好演し、ミュージカルスターとしての地位を確立していく。

しかし、いかに舞台で評価されても、彼女の挑戦はそこにとどまらなかった。「守りに入るのなんか絶対イヤだ。わたしね、毎年、毎月、毎日、ううん一秒ごとにいつも思っていることがあるの。新しい自分、輝いている自分を発見するためにはどうしたらいいかって。それには前進あるのみ」

ヴォイス・トレーニングのレッスンにより、美奈子はクラシックの歌唱法も身につけた。

「クラシックというと、姿勢をピーンと正して目を閉じて聴くようなイメージがありますよね。でも、わたしは、クラシックだからこう。とかいうんじゃなくて、空気みたいにいつも隣に音楽でありたいんです。曲を聴いてくださった方に、あるときは微笑みかけたり、悲しいときや辛いときには泣きましょうって、メッセージをささやいたりするような。少しでも皆さ

んに、光を与えられることができたらなって思うんです」

彼女が初のクラシックアルバム「アヴェ・マリア」で挑戦したのは、クラシックの世界にとどまらず、現代に生きる自分の思いを伝えることだった。

クリスマスコンサートにて。(撮影：原田京子)



「わたしが歌い続ける意味を、今、見つけました。そう、歌を通して太陽になること。とても難しいことだと思いますが、太陽のように皆さんに光を与え続けられるように、頑張りたいと思います。」

(株式会社ピーエムアイ『天に響く歌 歌姫本田美奈子の人生』より)

クラシックアルバム「時」のレコーディング風景。

(株式会社ピーエムアイ)

